

## 安曇養護学校における防災体制の充実に向けた取り組みについて

### —学校防災アドバイザー派遣・活用事業—

長野県安曇養護学校

#### 1 はじめに

長野県安曇養護学校は、北安曇郡池田町会染内鎌に位置しており、令和3年度は小学部・中学部・高等部・高等部分教室・訪問教育部に190名が在籍している。(令和3年12月現在)児童生徒は、北は小谷村、南は塩尻市の広域からスクールバスや送迎、自力通学で登下校している。また、寄宿舎もあり現在は25名の生徒が利用している。

学校東側の山の斜面には、クラフトパークや美術館、西側には有明山が聳え、雄大な北アルプスが連なっている。学校西側には一級河川の高瀬川が北から南に流れ、河川敷にはマレットゴルフ上や広場がある。穏やかな日には子どもたちが散歩を楽しむ姿が見られるが、学校付近や上流には霞堤防があり、高瀬川氾濫時にはそこから水を逃すような地形となっている。本校は、池田町のハザードマップによると、高瀬川の1000年に1度の想定最大規模降雨(48時間で741mm)では50cmから3mの浸水想定区域となっている。

#### 2 長野県安曇養護学校の防災体制について（概要）

「学校防災計画」「危機管理マニュアル」「避難確保計画」によって災害時の防災に備えている。防災組織は、本部・通報連絡・避難誘導・消火・救護・搬出・警備・査察の8つの係を編制し、全職員で組織している。防災教育としては、教室と寄宿舎で年間4回ずつ(火災3回、地震1回)避難訓練を実施している。今年度は新たに浸水害を想定したタイムラインを保護者に配布し、早い段階での引き渡しを想定した引き渡し訓練を実施した。

#### 3 学校防災アドバイザーの関わり

○今年度は、本校で制作したタイムラインおよび避難確保計画の内容の具体について、また、校舎内の地震等の災害に備えた環境整備について防災アドバイザーから助言をいただき、学校全体での防災に対する意識を高め、本校の実情に合った安全対策を講じていきたいと考えた。

##### (1) 学校防災アドバイザーから受けたアドバイスの内容

###### ① タイムライン・避難計画について

- ・近くの企業なども緊急時には有効。学校だけで進めずに町にも相談しながら検討。避難所の1つとして考える。
- ・実際に事前に2次避難場所を視察し、どこに避難するのかなど相談しておくことも大切。児生が

階段を上がるなども考慮しておく。

- ・受付も安曇養護は別にしておく方が良い。

② 教室・作業室の環境について

- ・ロッカーなどの上に荷物を置かない。重いもの（アイロン・電動工具）などは下に置く。地震ではガラス戸棚を破って出てくる。
- ・ロッカーなどが倒れる場所に生徒・職員の居場所（椅子）などがないように配置したい。ロッカーなどが倒れて、通路を塞いだりしない配置にする。加湿器なども地震でとんで来る考えで置き場所を考える。
- ・荷物をカゴに入れて、滑り止めシートを使うのも良い。

③ 防災頭巾やヘルメットについて

- ・防災頭巾やヘルメットは、地震が来たときにはすぐに使える場所に置く。

自分のロッカーにヘルメットを入れているクラスは良い。防災頭巾は机やいすにかけられるようにもなっている。調理室などのように、机の下にもぐれない場所もある。ロッカーの上などにケースに入れて置くとすぐに使えず、使うことなく避難する事になってしまうので注意。

④ その他の環境について

- ・ガラス戸棚や廊下と教室を区切る上にあるガラス戸にはガラス飛散防止フィルムを貼る。
- ・音楽室や廊下などの共用の場所では、安全な場所をラインテープなどの枠で示したり、掲示したりすると良い。（蛍光灯の下はダメ）
- ・ロッカーなどは、L字金具で固定したい。出来ない場所は一か所でも固定。
- ・下にキャスターがついているものは、全て動くので固定したい。特に廊下に置いてあると通路を塞ぐことになる。

⑤ 避難訓練について

- ・作業学習の時の地震訓練の実施。また、予告なしの避難訓練の実施や、（予告なしではパニックになると言うが、どのようなパニックになるのかが事前に分かる事や、実際の時のためにどのように準備するかが大切）、けが人が出た時など異なる想定での訓練を実施していく。
- ・教師が理解して動けるように訓練にマニュアルを入れていく。

⑥ 備蓄品

- ・生徒個人の備蓄も考える。安心グッズ。着替え。文字板。好きな缶づめなどを家から持ってきてもらう。
- ・人工呼吸器や医療機器に使える非常用電源について、非常の発電機でうまく作動するか確認しておく必要がある。

⑦ 研修と理解

- ・他の養護学校の防災の授業を見に行くのも良い。
- ・防災ポーチ作りは、PTA研修でもやり、授業でも取り組める。動画を作ったので他の学校はそれを見て行った。
- ・3年または5年ぐらいの計画があれば良い。

⑧ その他

- ・寄宿舎の火事や地震の2次避難→可能なら体育館で迎えを待つが、それ以外なら、町や自治会と

相談。出火した場合、まず子どもの安全確保。消火は出来ないだろう。消防団や学校に来てくれる地域の人をつくっている学校もある。

- ・寄宿舎の洪水のタイムライン→夜は危険のリスクも高いのでレベル2の状況も考える。  
家に引き渡すより、寄宿舎にいる方が安全という場合も考える。道路が浸水していれば避難できない。

## (2) 学校として取り組んだ内容（アドバイスを受けて改善した内容）

- ① タイムラインを保護者に配布し、早い段階での引き渡しの必要性について確認した。また、早い段階を想定した引き渡し訓練を実施した。

### ② 環境整備

- ・教室・作業室のロッカーや棚の上に置いてある荷物を整理し、低い位置や床置きを基本とした。  
上に置く必要がある物を最小限にし、落下防止のひもやゴムを取り付けた。また、棚内のカゴの下に滑り止め用のシートを購入し、配布、設置した。



棚の上の物の落下防止（ひもの取り付け・滑り止めシート）

### ③ 避難訓練

- ・地震を想定した避難訓練では、事前学習にて映像資料を活用し、イメージを共有した。

### ④ 関係機関との連携

- ・町の危機管理担当と本校の避難計画についての懇談を行った。町からの情報の発信や2次避難所の開設の仕組み等を知ることができた。避難のタイミング、場所についても町と連携しながら進めるように避難計画に盛り込むこととした。

## 4 事業の成果及び今後の課題

### 【成果】

- ・浸水害を想定して作成した台風・大雨時のタイムラインと避難確保計画について、防災アドバイザーに助言をいただいたことにより、計画が妥当なものであることが分かり、更に現実的な対応方法の詳細を検討するヒントをいただくことができた。
- ・災害時を想定した環境整備について実際に校内外を見てもらい助言をいただいたことで、学校として改善すべき点が明確になり、すぐに係を中心に改善にむけて動くことができた。他校での工夫の様子などを知っているアドバイザーからの助言は客観的でありがたかった。

### 【課題】

- ・浸水害を想定した2次避難場所については、まだ詳細な検討には至っていないため、今後関係機関とともに本校の実情に合った避難場所での引き渡し方法や避難場所、引き渡し場所の検討を行う必要がある。
- ・児童生徒や保護者が積極的に参加し、防災に対する意識を高められるような防災教育の実施。

### 5 まとめ

昨年度から、この学校安全総合支援事業に参加させていただき、地域の方や関係機関、保護者の方々と連携しながら防災体制を整えてきた。今年度は、昨年度作成した浸水害を想定したタイムラインや避難確保計画について、町の危機管理担当の方との懇談を行ったり、アドバイザーから助言をいただきたりして、本校の実情にあった計画に見直すことができた。今後は、2次避難について更に検討していくとともに、児童生徒が災害に対する意識が高まり、また、保護者が抱えている災害時における不安の解消につながるような防災教育を取り入れ、学校全体としての災害に対する備えを進めていきたいと考える。

**長野県安曇養護学校の水害タイムライン（家庭用）（抜粋）**

警戒レベル	気象予想 注意報・警報等	避難情報等 (池田町)	安曇養護学校	保護者
レベル1	大雨 強風の可能性		<ul style="list-style-type: none"> <li>台風の予想進路確認。</li> <li>大雨の継続の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オクレンジャーの配信等の受け取りに備える</li> </ul>
レベル2	大雨注意報 洪水注意報など	避難行動の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨の情報収集</li> <li>オクレンジャーで注意喚起</li> <li>今後の休校等の検討や情報収集と伝達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休校・スクールバス運行・登校後の引き渡しに備える。</li> <li>自力通学生は通学手段の運行状況確認</li> </ul>
レベル3	洪水警報 氾濫警戒情報 (大雨警報)	高齢者等避難 高瀬川水位 (十日市場) 2m	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校前なら、休校・始業を遅くする等 (校区内市町村の状況把握)</li> <li>登校後なら、(校区内市町村の状況把握)</li> <li>保護者に緊急メール発信 保護者に引き渡し (状況により学校継続) (状況により2次避難)</li> <li>引き取りが原則1時間30分を越えた場合は2次避</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オクレンジャーか電話での受信・返信 「どのくらいの時間で迎えに来られるか」 「誰が迎えにくるか」を返信 (アンケート形式)</li> <li>お迎えの経路の被害状況の確認</li> </ul>

			<p>難所（池田町多目的センター又は会染小学校）へ移動→オクレンジャー発信</p> <p>・スクールバスや職員の乗用車を利用しての2次避難。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き渡しカードに記入</li> </ul>
レベル 4	洪水警報 氾濫危険情報	避難指示 高瀬川水位 (十日市場) 2.3m	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校前なら、原則は休校（校区内市町村の状況把握）</li> <li>・保護者に緊急メール発信</li> <li>・保護者に引き渡し継続（1時間30分以内にレベルが上がり2次避難所に移動した場合）</li> <li>・スクールバス運行は中止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オクレンジャーか電話での受信・返信</li> <li>・道路状況・災害状況などを確認して安全に気をつけて行動する。</li> <li>・引き渡しカードに記入</li> <li>・お迎えの経路の被害状況の確認</li> </ul>
レベル 5	特別警報	緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校前なら、原則は休校</li> <li>・保護者に緊急メール発信</li> <li>・スクールバス運行中止</li> <li>・突然で2次避難できない状況なら、学校待機</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況により、無理して学校に迎えに来ず、学校と連絡を取り合い安全に迎えに行ける状況になった所で迎えに行く。</li> <li>・学校に来た場合は引き渡しカードに記入</li> </ul>
引渡し後			<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認メール発信と返信確認</li> <li>・休校した場合の学校再開の連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地での避難の場合、どこで避難しているのか学校へ伝える。</li> <li>・自宅等の被害状況などを伝える。</li> </ul>

(文責 教頭 小池 景子)

## 学校安全総合支援事業の取組について

### — 火山噴火避難・保護者引き渡し対応への取り組みについて —

長野県小諸養護学校

#### 1 はじめに

小諸養護学校は、長野県小諸市にあり佐久圏域の児童生徒を対象とした特別支援（知的障がい）学校である。また、国内有数の活火山である「浅間山」山麓に位置し、平成元年に開校して、今年で33年目になる。

小諸市にある本校の他、小中学部の分教室（ゆめゆりの丘分教室）が、佐久穂町にある佐久穂小中学校の中に設置されている。また、高等部分教室（うすだ分教室）も、佐久平総合技術高校臼田キャンパス内に設置されている。（更に、小諸高原病院内に訪問教室を置かせていただいている。）本校には、小学部55人、中学部40人、高等部91人、合計186人が籍を置き日々の学習に取り組んでいる。また、26人の生徒が月曜日から金曜日まで泊まっている寄宿舎も設置されている。

#### 2 小諸養護学校の状況について

##### (1) 本校の立地

本校は、浅間山を水源とする山麓に流れる河川の河岸段丘の上に建っている。敷地の北には8メートルを超す崖、南は道路をはさみ3メートルの崖になっていて、東側にはJR小海線があり、三方を閉ざされた場所に建っている。また、学校の西、3Kmほどとところには、千曲川が流れしており、令和元年の台風19号災害の際には、河川が氾濫、佐久圏域にも甚大な被害が出た。その際も地域から通う児童生徒の通学にも影響が出ていた。

##### (2) これまでの取組

災害等に対しては、これまでも年間を通して3回の避難訓練（寄宿舎では夜間を想定した訓練を含め4回実施）を行っている。しかしながら、火災や地震といった災害に対してであり、これまでに火山噴火を想定した訓練や保護者引き渡し訓練は行われてこなかった。

##### (3) 本校の課題

- ①火山噴火時の対応（避難誘導マニュアルはあるが、訓練はされていない。）
- ②災害時の保護者引き渡しの対応（学校周辺の道路事情、引き渡し時の校内動線の確保、引き渡しができない際の児童生徒への対応。）

#### 3 学校防災アドバイザーの関わり

本年度、8月に学校防災アドバイザー活用事業を使い、立正大学 白神先生にお越し

いただき、本校の実際の現場状況を見ていただいた上で、主に本校の実態からどのような状況を想定した訓練を行うことが有効か、火山噴火時の対応と引き渡し訓練の2つに向けてアドバイスをいただき、検討していく予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため、ご来校いただき現地を見ていただくことができなかつた。

#### 4 今年度の本校の取り組み。

##### (1) 火山噴火時の対応

火山噴火に関しては、近隣市町村の対応について、どういった状況が考えられるのか。また、その際にどの様な対応が必要なのか等を係職員が各市町村の防災担当者のところへ出向き情報収集をおこなった。その結果、火山の噴火での噴石、降灰、だけでなく空振によるガラス割れ、噴火後の降雨による火山灰土石流、また雪解けによる土石流等の二次的な被害も想定される事がわかり、現在ある、噴火の際の避難誘導マニュアルだけでなく、新たに噴火後に心配される状況についても見直しを始めた。

##### (2) 保護者引き渡し

これまでに、保護者引き渡しの訓練を行ったことがなく、本校職員も保護者もそのイメージがてていない状況であった。そこで、本年度は緊急時を想定して、保護者への連絡をとり、どのくらいの時間でお迎えにこれるか確認する訓練を行った。次年度は、実際に保護者に引き渡す訓練を行う予定である。

#### 5 事業の成果及び今後の課題

火山噴火時の対応については、近隣市町村における対応などを係職員が出向き、話を聞き、具体的な対応や噴火時のハザードマップをいただき、情報収集を行うことができた。

引き渡しについては、学校からの遠距離の家庭もあるが、近隣の保護者は、連絡後30分前後に集中する状況があることがわかった。そのことから、本校に入る道路が一本しかないため渋滞が避けられない状況や校内の車の循環が滞ることが予想されることもわかった。想定をして訓練をすることで、これまで持てていなかったイメージを持つことができ、職員からも「ひとつしかない道路が使えなくなった場合も想定する必要がある」などの反省が出された。次年度、具体的な引き渡し訓練（保護者に参集していただき、児童生徒を引き渡す訓練）を予定しているが、現時点での課題を明らかにする事ができた。

今年度は、机上での想定が主であったが、今後、避難や引き渡しなど、実際に体感しての訓練を行い、万が一の災害に備えていく必要がある。

#### 6 まとめ

本校の課題である、二点（①浅間山の噴火時の避難対応、②緊急時保護者引き渡し）について、来年度も継続して取り組んでいく。来年度は防災アドバイザーの先生や保護者、近隣地域の方のご協力も得ながら、実際に身体を使っての訓練を行う中で、課題を洗い出し、本校の実態に即した対応を考えマニュアル等を整備し有事に備えたい。

（文責 教頭 小林 宏樹）

## 長野養護学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

### — 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

長野県長野養護学校

#### 1 はじめに

長野県長野養護学校は長野県で最初に設置された知的障がい特別支援学校で創立 60 年を越える。長野養護学校本校（長野市徳間宮東）の他に、長野ろう学校に併置の小学部三輪教室（長野市三輪）、長野盲学校に併置の高等部朝陽教室（長野市北尾張部）、旧須坂創成高校須商キャンパス校舎の高等部すざか分教室（須坂市須坂）の 3 つの分教室がある。

令和 3 年度は、本校（小学部・中学部・高等部）・小学部三輪教室・高等部朝陽教室・高等部すざか分教室に児童生徒 235 名が学んでいる。通学範囲は長野市や上水内郡をはじめ、須坂市・上高井郡・中野市・下高井郡、飯山市・下水内郡と広域にわたり、自力通学（徒步、自転車、路線バス、電車）や付添通学、スクールバスによる通学（スクールバス 5 台）をしている。また、本校には寄宿舎もあり令和 3 年度は 36 名の生徒が利用している。

本校は長野市の上野ヶ丘の中腹斜面に立地し、長野市古里や豊野方面が一望できる。令和元年度に起きた台風 19 号災害では、校舎に被害はなかったものの、周辺の被害状況に愕然とした。被災した家庭も少なからずあった。また近年の天候不順、特に予測不可能なゲリラ豪雨等への対応から何度も一斉下校や家庭の迎え（引き渡し）による下校も検討した。これらのことから、あらためて防災について日頃から考え実践していく児童生徒を育んでいきたいと考えている。

#### 2 長野県長野養護学校の防災体制について（概要）

長野養護学校では、これまで年度当初に避難経路や基本的な避難方法を確認する訓練や、秋に地震を想定した訓練を毎年度実施してきた。また、寄宿舎でも同様に 2 回の訓練を実施してきた。

今年度は、上記に加えさらに、緊急時の引き渡し訓練や避難時の生徒搜索訓練、寄宿舎の就寝時間帯の避難訓練を行った。また、防災教育として、防災ポーチ作り（中学部 3 年）の授業も行った。

##### （1）避難訓練について

###### ①第 1 回避難訓練：避難経路及び基本的な避難方法確認

火災発生想定（感染予防のため、部・学年ごとに実施）

5 月 12 日（水）：

###### ②第 2 回避難訓練：地震による避難および引き渡し訓練

地震発生想定（感染予防のため、2 回に分けて実施）

6 月 25 日（金）：小学部・中学部・ほほえみ教室

7 月 9 日（金）：高等部



### ③第3回避難訓練：避難時の生徒捜索訓練を含む

火災発生、生徒1名避難時に行方不明のため職員係活動で捜索の想定。

11月1日（月）

### ④寄宿舎第1回避難訓練：避難経路及び基本的な避難方法確認

火災発生想定（感染予防のため、ブロックごとに実施）

5月17日（月）：

### ⑤寄宿舎第2回避難訓練：就寝時間帯近くの夜間避難訓練

\*消防署による防災指導

夜間時に火災発生想定

9月27日（月）

## （2）防災教育

### ①火災や地震の発生における危険性について

- 各避難訓練に合わせて、部・学年・学級・寄宿舎ブロックなど、児童生徒の生活に合わせて学ぶ機会を設けた。

学習カード例

「学校で地震が起きたとき、危ないものは？」

○をつけてみよう

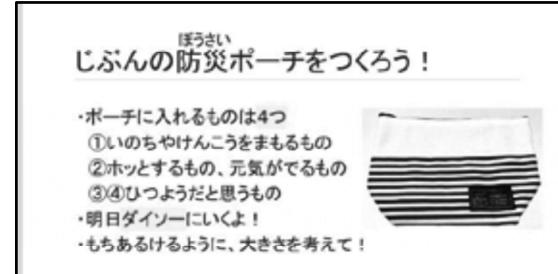


### ②防災ポーチ作り

- 学校や事業所、出かけ先などで災害（地震）にあった時、困りそうなことを考え、災害時に備えられるよう、必要なものを防災ポーチに準備した。

提示用パワーポイント例

「じぶんの防災ポーチをつくろう！」



## 3 学校防災アドバイザーの関わり

### （1）信州大学 廣内大助先生より

廣内先生には、本校が本事業に取り組む前の昨年度よりご指導をいただいている。本校の校舎の構造をふまえた避難経路のあり方や、特に引き渡しの時等には、保護者も含めた外部の方も分かりやすいように、避難場所等への誘導の表示が有効であることについて教えていただいた。今年度の引き渡し訓練ではそのアドバイスを活かし、矢印などによる誘導の表示を行い、保護者が混乱なく児童生徒の待機場所に迎えに行くことができた。



11月1日には避難訓練を実際に見ていただき、児童生徒の落ち着いた避難の様子について評価していただくとともに、職員の係活動や避難用ヘルメットのあり方について見直す点をご指摘いただいた。また、本校の2次避難場所が2カ所に分かれる計画になっている現状から検討していく観点や地域との連携の例を教えていただくとともに、賑やかなところや不慣れなところには苦手さをもつ児童生徒

がいる本校の様子から、校舎の状況によっては校舎内の安全な場所に避難をして待機するという方法も考慮すべきこととして教えていただいた。

#### (2) 立正大学 白神晃子先生より

白神先生には、8月5日にリモートによる係指導、11月9日にリモートによる職員研修「特別支援学校における学校安全の考え方」、12月16日に来校して職員研修「防災ポーチを作ろう」を行っていただいた。8月には本校の現状をふまえ、今後どのように計画を進めていくかについて多角的に相談にのつていただきとともに、特別支援学校での防災教育について他校の例を教えていただいた。11月には本校が防災教育を取り組んで行く上で、基本となる考え方について整理していただいた。「工夫を重ねて、負担は少なく、長く続ける」「“実践的に” “防災以外のねらいも立てる”」という基本となる考え方を教えていただいた。12月には校内視察で落下や転倒、移動する可能性のある物を固定する必要性やその固定方法、また避難路確保の視点から教室のドア付近の物品の危険性について具体的に教えていただいた。寄宿舎の夜間避難については生徒の様子から、1次避難の後の2次避難場所については舍に戻ったり教室棟を使ったりする等、状況に応じた対応を考えておく必要性を教えていただいた。職員研修の防災ポーチつくりでは、ワークショップ形式で職員が実際に考えを出し合う機会をもつことができた。

### 4 事業の成果及び今後の課題

本校の課題であった災害時の引き渡しや避難時の職員の係活動の実際（今年度は避難時の生徒の搜索）、寄宿舎の夜間時の避難について、実際に訓練を行い、その中で課題を見いだすことができた。次年度以降は今年度見いたした課題を、マニュアルの再検討や訓練での実証を通して改善を図っていく。具体的に次年度には、今年度は感染症予防から2回に分けた引き渡し訓練の完全実施、寄宿舎夜間避難訓練の時間を変えて行うこと（早朝訓練も含む）、緊急時の職員係活動の再検討（マニュアルの見直し）を行っていく必要がある。また、日常的に、教室や校舎内にある物の固定や避難路確保について取り組み、毎月行っている安全点検確認でチェックしていく仕組みを作っていく。

さらに、2次避難場所や地域との連携についての課題が浮き彫りになつたので、学校評議員会で地域の方に相談をしたり、長野市や周辺校と連携したりしながら取り組みを進めていく。

### 5 まとめ

本事業に参加したことが契機となり、これまで課題としながら手つかずであった点について取り組み始めることができた。学校防災アドバイザーにより、取り組んでいく上での視点を明確にしていただったり、他校の実践例を紹介していただいたりしたことにより、より取り組みやすくなつた。今年度取り組み始めたことにより、本校職員の危機管理意識も高まっていることを感じるので、次年度も全職員で防災意識を共有して取り組みを進めていきたい。

（文責 教頭 大野 技）

## 長野盲学校寄宿舎における防災学習

～もしもの時に備えて体験を重ね、防災安全を  
自分事としてとらえられるための取組～

長野県長野盲学校

### 1 はじめに

本校は、視覚障がいのある児童生徒 31 名が在籍し、その他に早期支援教室・早期教育相談・通級指導教室・東信教育事務所眼の相談室に約 30 人が定期的に通っている。昨年創立 120 周年を迎える、県内の特別支援学校の中でも最も歴史の長い学校である。

他の特別支援学校と大きく異なるのは、①0 歳児から成人までの幅広い年齢層の児童生徒が通学していること、②国家資格取得（あん摩・マッサージ師、鍼師、灸師）を目指す理療科があること、③視覚障がいのある教職員も 10 人以上在籍しており、良き先輩としてアドバイスできることである。盲学校は全盲の方しか在籍していないと思われがちだが、本校では全盲の生徒は 2 割のみで 8 割は弱視の生徒であり、見え方や見えにくさは一人一人で異なっている。さらに、知的障がいを併せ有する児童生徒が理療科を除いて半数以上在籍しており、わかりやすい授業や説明が必要である。

長野盲学校は、長野市の洪水ハザードマップでは、0.5～3 m の浸水想定区域に指定されている。本来、防災の基本としては、緊急時に少しでも早くご家族に引き渡す（迎えに来ていただく）ことが鉄則ではあるが、本校の場合は、単純に全校生徒にそれを実施することは難しい。東北信地域を通学区としており、一番遠方の生徒は南牧村から通学している。保護者の送迎を考えると、長時間かけて学校に迎えに来ていただく間の危険性が高いためである。

これらを考えると、様々な防災情報から早めの対応が必要となる。近隣の生徒は早めに下校する又は迎えに来ていただく体制をとり、遠方の生徒については、公共交通機関が利用できるうちに帰宅することを第一に考え、それが難しい場合は学校で垂直避難して安全に過ごしながら保護者の迎えを待つことが必要である。さらに帰宅が難しい遠方の生徒は、寄宿舎に宿泊して翌日帰宅することも考えられる。



### 2 寄宿舎での防災学習

今年度、寄宿舎では『生きる力を育てる寄宿舎の支援はどうあつたらよいか』のテーマの元、東棟（男子棟）では「もしもの時に備えて体験を重ね、防災安全を自分事としてとらえられるための取組」として、様々な防災学習を積み重ねてきた。寄宿舎の生活指導の中で大切にしている「食べる、寝る、排泄」の部分に視点を当てた実践を紹介する。

### 実践① 5／10（月） 「水の出ないトイレから、停電を想像してみよう」

ねらい：導入、これから防災学習・体験を始めていくイメージを持てるようにする。

水の出ないトイレの話題から、電気の止まった生活を考えてみる



- ① (水道管の壊れたトイレの写真を見て) このトイレどこか変。  
→「バケツで水を流せばいい」

- ② 寄宿舎のトイレも電気がないと水が流れない。停電時、困ってしまうことは何か?  
→灯りがない、見えない。スマホが使えない。冷蔵庫が使えない。食糧問題。家電が使えない。暖房が使えない、寒い。情報が入らない。等

### 実践② 5／25（火）「防災の基礎：大雨・洪水について。避難所生活をイメージしてみよう」

ねらい：千葉県での長時間停電のニュース映像から、自分達の意見が実際の千葉停電で困ったことに当たはまつことを知ることで、防災を学ぶ大切さを身近なこととしてとらえ、意識できるようになる。



- ・「台風・洪水」について学ぶ。
- ・プレイルーム設置のテントで避難所生活をイメージしてみる。

- ①千曲川洪水の時に北部スポーツ・レクリエーションパークが避難所になったとの話題で「そこに校外学習で行ったことがある」と答えるなど、身近な話題としてとらえている様子がうかがえた。サンアップルが被災したことを連想した生徒もあり、意識が高いと感じた。

- ②テント体験は、暗さや狭さの実感など良い体験になった。

### 実践③ 6／8（火） 「防災の基礎：地震について」

ねらい：阪神淡路大震災以降の大きな地震について考える。



- ・震度とマグニチュード…長野県北部地震を想定して、体験して学ぶ。
- ・地震が起きた時、どうすればいいかを考える。

- ①県内（栄村）で起きた北部地震の様子を写真で学んだ。

- ②前回「震度6強が、何だか分からぬ」と意見が出た。どうすれば実感することができるか→記録映像を見たり、最大震度を感じた栄村と自分の住んでいる所の距離などを体感したりすることで、「震度6強」をイメージした。震源を音（ICレコーダーの緊急地震速報）にすることで、震源からの距離を理解しやすいと考え、体験してみた。

- ③自分の身を守るポーズをそれぞれ考え、ダンゴ虫のポーズがよいことを学んだ。  
・「ダンゴ虫の体勢を作って頭を守り、落ちついて避難したい。自然災害は人の想像した時よりすごいことが起きる時があるので柔軟に対応したい」

- ・「震度6以上はあまり想像できないけれど、何となく分かった気がする」

#### 実践④ 7／13（火） 「停電体験。トイレに水を流す体験」

ねらい：災害の基礎で学んできた「大雨洪水」「地震」に関連して、電気が止まった場合の（灯りのない）泊まりを体験する。

- ・災害時に一番困るトイレの問題。実際にバケツで水を流してみる。
- ・日常生活の中で日頃から意識できることを確認していく。

①「自分は暗所恐怖症」と言っていた生徒が、身近にあったペットボトルを自分で工夫してランタンの灯りにしていた姿があった。困った状況で知恵を働かせる能力は、生きていく力に結びついていく部分だろう。

②スマホへの執着が強い生徒は、停電時に充電できなくなる想定に納得していた。感想でも「少量の残量でもできたのでよかった」とあげており、よい経験となった。

③トイレにバケツで水を流す体験では、流すためには3～4杯の水が必要で、労力も大変だということが実感できた。

④安全面に配慮しながらも限られた想定を設定し、夜の暗さを体感できることは、泊まりのある寄宿舎生活ならではの体験になった。



#### 実践⑤ 8／31（火） 「ドラム缶風呂 体験」

ねらい：避難所生活と関連した緊急時の入浴として、ドラム缶風呂を体験する。

- ①火を起こす大変さなど実体験をすることができた。
- ②ドライシャンプーなど防災グッズの紹介・体験することができた。

③実際に避難所に設置された自衛隊風呂の写真を提示したこと、今後プレイルームで泊まってみる避難所体験のイメージが少しもてた。

④ここ何年が行ってきたアウトドアの経験は災害時に活かすことができる。7月に行った段ボールベッド作りも避難所体験に関連して結びつけることができそうだ。

- ・段ボールベッドでは他に新聞紙を使ったクッション作りや、缶切りを使わずに缶詰を開ける方法を実践する。舍体験のMY生も交え協力しあう姿が目立った。→「段ボールを貯めておくと避難生活に役だつ」



#### 実践⑥ 10／20（水） 「避難所 宿泊体験」

ねらい：避難所を想定した宿泊を体験する。

- ・コロナ対策を意識した避難所の環境について考えるきっかけとしていく。
- ・余暇活動の中で取り組んだり、菊花祭に向けて作っ



たりした防災用品を再確認する機会にする。

- ①生徒の疑問から、その場にあるもので着替えコーナーを工夫したり、備蓄庫内を興味深そうに見たりしていた。
- ②宿泊してみた感想に「慣れていない場所で眠れなかつた」とあつたが、「実際は避難所から学校や職場に行かなければならぬ人もいた。またこの生活がどれだけ続くのか予想できない不安も大きかつたはず。」との説明にうなづいていた。
- ③台風19号千曲川氾濫から2年のタイミングや、段ボールベッド・パーテイションを実際に作ったことで災害時の避難所生活を身近に感じることができた。

#### 実践⑦ 11／10（水） 「サバイバルめし炊き体験」

ねらい：避難所体験後の学習として、ライフラインが途絶えた中でも身近な物を工夫して、あたたかいご飯が食べられる経験をする。

- ・ライフラインが途絶えた中でも身近な物を工夫して、あたたかいご飯が食べられる経験をする。

- ①一番先に炊き上がった生徒は、余った燃料を他の人に分けていた。その分炊いたご飯は少し水気が多かったが、他の人に気遣う点など性格が表れていた。缶切りの扱いは苦戦していたが、調理で炊飯を続けてきて慣れている様子も感じられた。
- ②遅れて参加した生徒は、暗くなつて気温も下がり上手く燃えなかつたが、他の人より多くの牛乳パックを使い最後まであきらめずに炊き上げた。自分で炊いたご飯は「硬さも味も丁度良くて自分好みのご飯ができた。家のご飯より美味しいかも…」と言っていた。大変だった分、炊き上がりも満足いく物になったよう
- ③ある生徒は、途中燃料が無くなりそうになり仲間から分けてもらったり、うちわを持ってきて空気を送り火力を強めたり、工夫して行っていた。
- ④それぞれの個性も表れていた。燃料を分けたり協力したり、お互い助け合つて進める姿も目立つた。時間をかけ苦労もあったが良い経験になった。



### 3 今後の防災学習の展開

令和元年のハザードマップ改訂により、浸水想定区域に指定されたことを受け、今年度初めて浸水時避難訓練を実施した。校舎が3階建てであることから、1階にいる者から3階の指定教室へ避難するというだけのものではあるが、児童生徒・職員共に「垂直避難」を体験した。これまで避難というと、下へ（戸外へ）の避難しか体験したことがなかつたので、上へ（垂直に、高いところに）避難することに違和感を覚えた者もいたと思われる。

本来、全校で一齊に垂直避難する状態はほぼありえないことである。もっと早い段階から、自力下校を開始したり保護者に迎えを依頼したりして、少しでも早く保護者の元に無事に帰れるようにしていくべきである。来年度は、そのためのタイムラインを作成し、本校独自の引き渡し訓練を実施していきたい。

（文責 教頭 藤澤 里美）

**令和3年度 学校安全総合支援事業**

**実践報告集**

発行年月 令和4年2月

発行者 長野県教育委員会